

南瓜

芥川龍之介



何しろ南瓜かぼちやが人を殺す世の中なんだから、驚くよ。どう見たつて、あいつがそんな大だいそれた真似をしようなんぞとは思はれないぢやないか。なにほんものの南瓜かぼちやか？ 冗談じょうだん云つちやいけない。南瓜は綽号あだなだよ。南瓜の市兵衛いちべゑと云つてね。吉原よしはらぢや下つぱの——と云ふよりや、まるで数かずにはいつてゐない太鼓持たいこもちなんだ。

そんな事を聞く位ぢや、君はあいつを見た事がないんだらう。そりや惜しい事をしたね。もう今ぢや赤い着物を着てゐるだらうから、見たいつたつて、ちよいとは見られるもんぢやない。頭いっすんぼふしでつかちの一寸法師いっすんぼふし見たいなやつでね、夫それがフロツクに緋天鳶ひびろうど絨じゆうのチヨツキと云ふ拵こしらへへなんだから、ふるつてゐたよ。おまけにその鉢はちの開ひらいた頭まげへちよんと鬘まげをのつけてゐるんだ。それも粹よしべゑな由兵衛よしべゑ奴やつこか何かでね。だから君、始め

て遇あつたお客は誰でもまあ毒どく氣をぬかれる。すると南瓜のやつは、扇子で一つその鉢の開いた頭をぽんとやつて、「どうでげす。新技巧派の太鼓持たいこもちもたまには又乙おつでげせう」つて云ふんだ。悪い洒落しやれさね。

洒落と云へば、南瓜かぼちやにや何一つ芸らしい芸がない。唯お客をつかまへて、洒落しやれ放題ほうだい洒落る丈だけなんだ。それが又「にはかに洒落しやれられません」つて程にも行ゆかないんだから¹、心細いやね。尤もつとそこはお客もお客で曲まがりなりにも洒落しやれのめせば、それでもう多たわい曖なく笑つてゐる。云はば洒落しやれのわかつたのが、うれしくつてたまらないと云ふ連中ばかりなんだ。

あいつも始はじめはそれが、味み噌そ氣けだつたんだらう。僕が知つてからも、随ずいぶん分ぶんいい氣になつて、撥くすぐつたもんさ。所ところがいくら南瓜かぼちや

1 「行ゆかないんだから」は底本では「行ゆかないんだから」

だつて、さう始終洒落しやれてばかりゐる訳にや行きやしない。たまには改まつて、真面目まじめな事も云ふ時がある。が、お客の方ぢや南瓜は何時いつでも洒落るもんだと思つてゐるから、いくらあいつが真面目まじめな事を云つたつて、やつぱり腹を抱へて笑つてゐる。そこがこの頃になつて見ると、だんだんあいつの氣になり出したんだ。あれで君、見かけよりや存外ぞんぐわい神經質な男だからね。いくらフロツクに緋天鳶絨ひびろうとのチヨツキを着て由兵衛よしべゑ奴の頭を扇子せんすで叩いてゐたつて、云ふ事まで何時いつでも冗談じやうだんだとは限りやしない。真面目な事を云ふ時は、やつぱり真面目な事を云つてゐるんだ、事によるとお客よりや、もつと真面目な事を云つてたかも知れない——とまあ、僕は思ふんだがね。だからあいつに云はせりや「笑ふ手前が可笑をしいぞ」位な氣は、とうの昔からあつたんだ。今度のあいつの一件だつて、

つまりはその不平が高じたやうなもんぢやないか。

そりや新聞に出てゐた通り、南瓜かぼちやが薄雲太夫うすぐもたいふと云ふ華魁おいらんに

惚ほれてゐた事はほんたうだらう。さうしてあの奈良茂ならもと云ふ

成金なりきんが、その又太夫たいふに惚ほれてゐたのにも違ひない。が、なん

ぼあいつだつてそんな鞆さや当筋あてすぢだけぢや人殺しにも及ぶまいぢ

やないか。それよりあいつが口く惜やしがつたのは、誰もあいつ

が薄雲太夫に惚ほれてゐると云ふ事を、真まにうける人間がゐな

かつた事だ。成金のお客は勿論、当の薄雲太夫にした所で、そ

んな事は夢にもないと思つてゐる。尤もつともさう思つたのも可愛かはい

さうだが無理ぢやない。向うは仲なかの町ちやうでも指折りの華魁おいらんだし、

こつちは片輪も同様な、ちんちくりんの南瓜だからね。かう

ならない前に聞いて見給へ。僕にしたつて嘘だと思ふ。それ

があいつにやつらかつたんだ。別して惚ほれた相手の薄雲太夫

が真にうけないのを苦に病んだらしい——だからこそその人殺しよ。

何でもその晩もあいつは酔っぱらつて薄雲太夫の側へ寄つちや、夫婦になつてくれとか何とか云つたんださうだ。太夫の方ぢや何時もの冗談と思ふから、笑つてばかりゐて相手にしない。しないばかりなら、よかつたんだが、何かの拍子に「市兵衛さんお前妾に惚れるなら、命がけで惚れなまし」つて云つたんださうだ。それがあいつの頭へぴんと来たんだらう。おまけに奈良茂がその後から、「かうなると汝と己とは仇同志や。今が今でも命のやりとりしてこまそ」つて、笑つたと云ふんだから機会が悪い。すると、南瓜は今まではしやいでゐたやつが、急に血相を変へながら坐り直して——それから君、何をやつたと思ふ。あいつがそのとろんこになつた眼

を据ゑてハムレットの声色こわいろを使つたんだ。それも英語で使つたんだと云ふから、驚かあね。

これにや一座も、呆氣あつきにとられた。——とられた筈さ。そこにゐた手合てあひにや、遊扇いうせんにしろ、蝶兵衛てふべゑにしろ、英語の英の字もわかりやしない。其角きかくだつて、「奥おくの細道ほそみち」の講釈はするだらうが、ハムレットと来た日にや名を聞いた事もあるまいからね。唯その中でたつた一人、成金なりきんのお客にやこれがわかる——そこは亜米利加アメリカで皿洗ひか何かして来ただけに、日本の芝居はつまらないとあつて、オペラコミツクのミス何なんとかを鼻屑ひじきにしてゐると云ふ御人体ごにんていなんだ、がもとより洒落しやれだと心得てゐたから、南瓜が妙な身ぶりをしながら、薄雲太夫をつかまへて、「You go not till I set you up a glass/Where you may see the inmost part of you.」とか何なんとか云つても、

不相変げらげら笑つてゐたさうだがね。——そこまでは、まあよかつたんだ。それがハムレットの台辞せりふよろしくあつて、だんだんあいつが太夫たいふにつめよつて来た時に、間の悪い時は又間の悪いもので、奈良茂ならもの大將が一杯機嫌でどこで聞きかじつたか、「What, ho! help! help! help! help!」とポロニアスのこわいろ声色を使つたぢやないか。南瓜のやつはそれを聞くと、急に死人のやうな顔になつて、息がつまりさうな声を出しながら、「How, now! A rat? Dead for a ducat, dead!」と云ふが早いか、いきなり奈良茂ならもの側にあつた鮫鞆さめがやの脇差わきざしを引こぬいて、ずぶりと向うの胸へ突つこんだんだ。そこでほんもののポロニアスなら「Oh! I am slain.」と云ふ所なんだが、刀は切れるし、急所だし、うんと云つたきりお客は往生わうじやうさ。その血の出た事つたらなかつたさうだよ。

「見やあがれ。己おれだつて出たらめばかりは云やしねえ。」——
南瓜かぼちやはさう云つて、脇差を抛なり出したさうだがね。返り血も
かかつたんだらうが、チヨツキが緋天絨ひびろうど奮ふなので、それがさ
ほど目に立たない。人を殺したつて、殺さなくつたつて、見
た所はやつぱりちんちくりんの、由兵衛よしべゑ奴やつこにフロツクを着た、
あの南瓜いぢべゑの市兵衛いちべゑが、それでもそこにゐた連中にや、別人の
やうに見えたんだらう。——見えたんぢやない。まるで別人
になつてしまつたんだ。だから、あいつが御用ごようになつて、茶
屋の二階ひつたから引立てられる時にや、捕縄とりなはのかかつた手の上か
ら、桐きりに鳳凰ほうわうの繡ぬひのある目のさめるやうな綺麗きれいな仕掛しかけを羽織はお
つてゐたと云ふぢやないか。なに誰の仕掛だ。勿論薄雲うすくも太夫だいふ
のさ。

それ以来吉原よしはらは、今でもあいつの噂うはさで持ちきつてゐるやう

だ。兔とに角かくこれで見ても、何なんでも冗談じょうだんだと思しふのは危険けんけんだよ。
笑わらつて云いつたつて、云いはなくつたつて、真面目まじめな事はやっぱ
り真面目まじめな事にちがひないからね。

(大正七年二月)

南瓜

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
1971（昭和 46）年 6 月 5 日初版第 1 刷発行
1979（昭和 54）年 4 月 10 日初版第 11 刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007 年 6 月 26 日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫
(<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。